

株式会社エフピコ
2025 年 3 月期 決算説明会 質疑応答（サマリー）
(2025 年 5 月 2 日)

Q：今期計画の経常利益増減について、原料価格影響がマイナス 9 億円と見込まれており、特に上期の影響が大きい計画となっている。ポリスチレンの値下がりが見込まれる中で、利益の上振れ余地はあるか。また、下期の影響についても教えてほしい。

A：上期は昨年に受け入れたユーティリティの値上げの影響が残る。原料価格は 4 月～6 月の高止まりを前提に計画に織り込んでいる。

Q：製品販売数量が 2%増加する今期計画について、背景を教えてほしい。

A：エフピコフェアが非常に好評だったことや新規商談の進展があることから、販売数量は増加すると見込んでいる。ユーザーも販売点数の減少に対して対策を講じていることから、上期よりも下期を強気の計画としている。

Q：販売数量について、上期 1.5%増、下期 2.5%増の計画となっているが、特に下期の計画の実現性について教えてほしい。

A：新規商談が順調に進展しており、自信を持っている。冷凍食品、病院、介護分野での新たな需要も見込んでいる。

Q：今期の設備投資計画を 195 億円としているが、新 OPP の設備投資が含まれているか教えてほしい。

A：新 OPP の関連設備は今期の設備投資計画に一部含まれている。

Q：2027 年 3 月期の設備投資の見通し、その主な内容や償却スケジュール、資金調達方法について教えてほしい。

A：2027 年 3 月期の設備投資額は約 200 億円を見込んでおり、新 OPP 関連の大型投資を一部含む。
新工場は 2027 年 11 月に稼働予定であり、償却は 2028 年 3 月期から一部開始、2029 年 3 月期には通期で計上される見込み。資金については、有利子負債をあまり増やすことなく、営業キャッシュフローを基本として対応可能と見込んでいる。

Q：原料価格が下がった場合の製品価格戦略について教えてほしい。

A：原料価格が大幅に下がらない限り、製品価格を下げることは考えていない。原料価格が大幅に変動するかどうかが重要な判断要素であり、今後の動向を踏まえて考えたい。

Q：2030 年 3 月期の売上 3,000 億円、経常利益 300 億円の長期目標について、その手応えを教えてほしい。

A：これまでのエコ戦略や新製品の投入、問屋との協力などが順調に進展している。特に技術的な面で他社との差別化が進んでおり、スーパーとの協働を拡大しているエコストア宣言などの成果も大きく、非常に手応えを感じている。

Q：ROE の改善について、長期目標達成に向けた見通しを教えてください。

A：ROE の改善には、設備投資の成果が重要であると考えている。特に新 OPP については、早期にフル稼働へ移行できるかどうかが重要となる。過去に実施した関西工場・関西ハブセンターへの投資により、償却が月 1 億円増加しているが、物流の効率化などプラスの効果が出てきている。ROE の構成要素の推移を見ると、純利益率が高い時に ROE は改善している。引き続き収益力を強化することで企業価値が向上すると考えている。

以上